

氏名(本籍)	朝倉隆太郎(栃木県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博乙第1687号		
学位授与年月日	平成13年1月31日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	教育学研究科		
学位論文題目	中学校の校歌にうたわれている山地に関する地理教育学的研究		
主査	筑波大学教授	博士(教育学)	谷川彰英
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	桑原隆
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	山内芳文
副査	筑波大学教授	理学博士	斎藤功
副査	筑波大学教授		柳本雄次

論文の内容の要旨

1. 研究の目的と課題

本研究は、全国の中学校の校歌を収集し、その歌詞にうたわれている環境要素を分析し、その中でも山地がどのように歌いこまれているかを地理教育学的に考察したものである。北海道から沖縄県まで1万余校の中学校にアンケート調査を行い、その結果を「山地校歌率」「山岳圏」という分析手法を用いて環境と人間との相互作用と発達の要因を明らかにすることを意図している。

2. 論文構成と内容

本論文の構成は次のようになっている。

まえがき

序章 教育環境と校歌

第1章 北海道の中学校校歌にうたわれている山地

第2章 東北地方の中学校校歌にうたわれている山地

第3章 関東地方の中学校校歌にうたわれている山地

第4章 甲信越の中学校校歌にうたわれている山地

第5章 北陸・東海の中学校校歌にうたわれている山地

第6章 近畿地方の中学校校歌にうたわれている山地

第7章 中国・四国地方の中学校校歌にうたわれている山地

第8章 九州地方の中学校校歌にうたわれている山地

終章

あとがき

3. 全国調査の方法

北海道から沖縄県まで、全国の中学校(分校を除く)に対して、「校歌に関する調査票」を郵送配布して回答を

依頼した。調査票の内容は(1)校歌の歌詞、(2)作詞者・作曲者とその所属、(3)校歌制定の年次と校歌制定の経緯、(4)学校の創立年次(統合を含む)、(5)校歌を皆で歌う場合、の5項目である。

「(1)校歌の歌詞」は、①山地(島・半島・岬などを含む)、②河川(湖・沼・湧水などを含む)、③平野、④海洋、⑤気候、⑥動植物、⑦産業・交通、⑧歴史的背景の8項目の環境要素に分けて、中学校別に集計した。それらのうち、「①山地」についてまとめたものがこの研究である。調査の期間は、昭和57年度から平成9年度までで、調査票の都道府県別回収率平均は78%であった。

4. 研究の内容と成果

前述の8項目の環境要素別校歌数の調査対象校数に対する割合を、都道府県別に見ると、長崎・沖縄2県を除き、すべて山地が第1位を占める。長崎県は④海洋に次いで第2位、沖縄県は④海洋⑧歴史的背景⑥動植物に次いで第④位であり、両県の特徴がうかがわれる。中学校の校歌をうたわれている山地(地理学における自然的環境の一部)を、教育環境の一つとして取り上げて考察している点に特色がある。

全国を北海道・東北・関東・甲信越・北陸東海・近畿・中国四国・九州の8地方に分け、各都道府県ごとに、3校以上の校歌に取り上げられている山地について、市郡別校数(中学校)、校歌詞の例、山地の特色を述べている。また、地方別または都道府県別に校歌詞に託された教育目標を列挙している。調査の結果、全国的に見ると、次のようなことが言える。

- (1) 都道府県別に、「山地を取り上げている校歌数の調査対象校数に対する役割」を「山地校歌率」と呼ぶと、それが最も高いのは、内陸の群馬・山梨・長野の3県で、いずれも90%以上である。
- (2) 建設省国土地理院の国土数値情報によると「山地率」= x とし、「山地校歌率」= y とすると、相関係数 $r = 0.65$ の正の相関を示し、回帰直線は $y = 0.37x + 53.9$ となる。
- (3) 都市の勢力圏を都市圏と呼ぶのにならって、一つの山地が校歌に取り上げられている地域的範囲をその山地の山岳圏と呼ぶこととし、都道府県別に「校歌に歌われている山地」の図を作成している。それにより、各山地の山岳圏が明らかになった。
- (4) 最大の山岳圏をもつのは富士山で、東は麻生町(茨城県)、西は神島(三重県)、南は伊豆大島・下田市、北は諏訪市・栃木市に及んでいる。
- (5) 校歌数の多い順をみると、1. 富士山627校、2. 筑波山181校、3. 秩父山地112校、4. 生駒106校、4. 伊吹山82校となる。その他20校以上の校歌に取り上げられている山地は次の通りである。

北海道…阿寒岳・大雪山・樽前岳・手稲山。

東北…岩木山・八甲田山・岩手山・栗駒山・泉ヶ岳・蔵王山・鳥海山・月山・飯豊山・吾妻山。

関東…男体山・那須岳・赤城山・榛名山・多摩丘陵・大山・丹沢山。

甲信越…飛騨山脈・八ヶ岳・浅間山・赤石山脈・御嶽山・弥彦山・妙高山・守門岳。

北陸東海…立山・白山。

近畿…鈴鹿山脈・比叡山・金剛山・葛城山・六甲山。

中国四国…大山・石鎚山。

九州…脊振山・雲仙岳・阿蘇山・霧島山・桜島。

校歌に取り上げられる山地の主要な条件としては、「山容が美しいこと」「標高の高いこと」「付近に学校数が多く、平地や海洋が広がっていること」「古くからの山岳信仰に支えられていること」「神話・伝承や歴史的事象とかわりのあること」などが挙げられている。また、校歌詞を検討すると、山地のもつ気高さ、清々しさ、雄々しさ、おおらかさなどに、数々の教育目標が託されている。最も多いのは「希望・理想・真理」であり、また、郷土の先人や歴史を歌いこみ、郷土愛の育成を目指している歌詞もある。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文の特色は、全国の中学校の約8千に及ぶ校歌を収集し、その歌詞から山地に込められた人間形成的機能を探った点にある。これまで、校歌についての研究は地域ごとにごく部分的に行われてきたに過ぎず、全国的な規模で調査し、それを地理教育学的実証的に分析考察した研究は本論文が始めてであり、「山地校歌率」「山岳圏」などの視点から具体的に克明な図を作成している点も注目される。

ただし、本論文では校歌にうたわれている山地とその地域の人々の生活との関連や、学校教育における校歌の教育的機能の分析ははまだ十分なされているとは言い難い。しかしながら、そのような問題点はあるものの、基礎的な情報収集を行い分析手法を提示したことには十分な意義が認められ、学位論文としての価値を損うものではない。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。